

# 不安を与えない画像診断や 迅速な治療の提供を通じて 地域の精神科医療を担う



—ザ・リーダーズ—  
**The Leaders**

医療法人 古橋会  
**揖保川病院**

すべての世代に応じた  
精神疾患治療を提供

揖保川病院は、兵庫県西播磨地域を中心に、50年以上にわたって精神疾患に特化した診療を続けてきた医療機関として知られている。同院では「人間愛」を理念として掲げ、多くの医療機関で行われているような、うつ病治療、認知症治療に加え、発達障害や自閉症などの児童思春期に生じやすい疾患を診察する外来も設置。子どもから成人、高齢者まで、幅広い世代の患者を受け入れてきた。「児童思春期に生じた精神の問題が、成人後に精神疾患へ進行するケースもあり得ます。すべての世代を診られることで一貫した治療が可能です」と古橋淳夫院長は説明する。充実した診療体制を構築できる背景には人員の豊富さがある。同院には古橋院



病院長 **古橋 淳夫**

ふるはし・あつお ●医学博士。1990年に兵庫医科大学大学院博士課程修了。99年より医療法人古橋会揖保川病院長

スルータイプのMRIをいち早く導入。「パニック障害やうつ病、不安障害の方は、閉鎖した機器内の撮影に不安を持つこともありますが、機器内から外の風景が

長に加え、日本の認知症治療を牽引してきた京都大学元教授など、精神疾患、認知症、児童思春期の各分野で実績ある医師が揃う。それぞれ看護師や作業療法士らスタッフと密に連携し、薬物療法から、音楽療法やドッグセラピーなどの非薬物療法まで、患者に適した治療で病状の長期的な安定を目指していく。

**診断から治療までを  
半日で完結させる**

現在に至るまで、同院は優れた医療を追求し続けてきた。代表的なのが先進的な診断への取り組みだろう。近年、精神科医療ではMRIによる脳の画像診断の重要性が高まっている。特に認知症においては脳の萎縮を発見できるため、早期発見に欠かせない検査にさえなった。古橋院長はその重要性に早くから着目し、シー

スルータイプのMRIをいち早く導入。「パニック障害やうつ病、不安障害の方は、閉鎖した機器内の撮影に不安を持つこともありますが、機器内から外の風景が

## 閉所による不安を与えない スルータイプのMRIを導入



同院では脳の画像診断機器としてスルータイプのMRIを導入した。このタイプのMRIは、患者が閉鎖した筒の中を通る一般的なMRIとは違い、外の景色を見ながら検査を受けることが可能だ。結果、閉鎖空間に恐怖心を抱くことがある閉所恐怖症やパニック障害などの患者にとっても検査への垣根が低くなるという。

見えるMRIなら安心して検査が受けられます。そうした利点を持つMRIを軸に、同院では検査から診断、治療まで半日で完結させることを可能にしてきた。

今後は、社会のさらなる高齢化を見据えて認知症治療の拡充も目指していくという。現状でも早期発見につながる物忘れ外来、重症例に対する入院加療などを提供するが、それに加えて認知症のデ

診療科目：精神科、神経内科  
受付時間：8:45～11:00(原則予約制)  
休診日：日・祝  
病床数：360床  
・精神科急性期治療病棟41床  
・認知症治療病棟48床  
・精神科療養114床  
・精神科一般157床  
〒617-1688 兵庫県たつの市揖保川町半田703-1  
TEL.0791-72-3050(代) FAX.0791-72-5895  
http://www.ibogawa-hospital.jp/

る器量を持ち、患者への対応や声のかけ方など、医療の質として考慮されづらい細かな振る舞い、まで気を配ることが大切でしょう。実際、現在でも定期的な朝礼などを通じて常日頃から自身の考えを話すなど、職員全員で意識の共有に努めているという。地域の将来を見据え、同院は最善の精神疾患医療を追い求める。

取材／鈴木健太